

一般社団法人日本木造住宅産業協会 会員の皆様

「現代・和室の会」設立と設立総会のご案内について

会員の皆様におかれましては、日頃より、我が国の伝統工法である木造軸組工法を駆使して住宅建設をされていることと存じます。皆様のご努力のもと、木造軸組み工法は、今でも多くの人々の支持を集め、その住宅が日本の原風景と呼べるものを形作ってまいりました。

一方で、和室は、従来は当然のようにその内部に設えられてまいりましたが、生活様式が変化するとともに減少しています。昨今はフローリングのみの住宅も珍しくありません。

それは志向の変化であり、やむを得ないことかもしれませんが、我が国の高温多湿の気候風土に適した畳や和紙を使った内装材について、需要の減少に伴い、現在その生産基盤が失われようとしています。また作ることでできる職人や大工も高齢化し、若手は極端に減少しています。このままでは、和室は、作りたいと考えても作れない、非常にコストが高くて特別な建物にしか作れない、というものになってしまいます。

1000年をかけて茶道や華道などを育み、陰影に富んだわが国独自の生活文化を支えてきた和室が、手が届かないものになるまえに、何らかのことをして次代に残すため、新たに「現代・和室の会」を設立することといたしました。

本会は、日本建築学会の「日本建築和室の世界遺産的価値特別調査委員会」やワーキンググループにおける約10年にわたる研究活動を母体とするものですが、今後は、学术界だけでなく広く生産者や利用者を巻き込み、活動の場を広げていきたいと考えています。

ここで改めて「和室文化」を総合的に把握し、現代における和室のあり方を追求するとともに、和室の重要性を世界に示し無形文化遺産として国際認知されることを目指します。

来る3月26日(火)に東京都の茗荷谷にて「現代・和室の会」設立総会と懇親会を開催いたします。ご興味をお持ちくださった方は、是非お気軽に足をお運びください。

最後になりますが、このご案内を配布いただいた日本木造住宅産業協会様にお礼を申し上げます。

2024年2月吉日

「現代・和室の会」設立準備会

[問い合わせ先 info@gen-washi.jp](mailto:info@gen-washi.jp)

「現代・和室の会」設立総会及び懇親会のご案内

私たちは、以下の「現代・和室の会」の宣言文にあるように、「和室文化」を総合的に把握し、その固有の価値や多義的意味を解き明かしながら、和室の重要性を世界に示し、無形文化遺産として国際認知されることを目指します。

私たちの活動の趣旨にご賛同いただける皆様、あるいはご興味をお持ちいただいた皆様には、「設立総会」と「懇親会」にご同席いただけましたら幸いです。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

「現代・和室の会」設立準備会

「現代・和室の会」の設立に向けて(宣言) “和室”から生まれた和室文化を無形文化遺産に

内田 青蔵

私たちは、今、岐路に立たされています。

幕末以来、伝統文化に新たに欧米文化を取り込み、世界に類を見ない住文化を構築してきました。ただ、欧米文化の浸透とともに、住文化の大勢は、古き良き伝統文化を次第に失い、欧米文化を基本とするものへ移行してきたように思います。

一般に、畳を敷いた部屋を“和室”と呼び、食事や睡眠、接客の場や宴会の場、雛祭りや節句の部屋といった様々な行為の場として慣れ親しんできました。しかし、そうした伝統文化を象徴する“和室”が、住まいの中から消えつつあるのです。それは単に、“和室”という部屋の消滅を意味するだけではありません。その場で行われてきた多様な生活行為から養われてきた様々な「ふるまい」や生活原理、生活体験、家の外や街まで繋がる空間把握や空間体験、そうした中で磨かれた感性の衰退、あるいは、空間としての“和室”を構築してきた伝統的技術や職人の世界という素晴らしい生産システムの喪失も意味するのです。

それらの伝統的な住文化を総称して「和室文化」と呼ぶとすれば、まさに、この失われつつある「和室文化」をもっと大切にしなければなりません。それらは一度失われると再興するのは極めて困難なものであり、「文化的持続可能性」を重視すべきです。

そこで、私たちは、今こそ和室の新生のために、住み手市民の皆様と一緒に、“和室”とかかわる研究者や行政の方、あるいは作り手である設計者、大工左官などの技能を持った職人の方、木材を産み育てる林業、建設業、畳や建具製作等の様々な生産にかかわる方がたが、それぞれの知見を持って、大きく団結する会をつくりたいと思います。

ここで改めて「和室文化」を総合的に把握し、その固有の価値や多義的意味を解き明かしながら、和室の重要性を世界に示し、無形文化遺産として国際認知されることを目指します。未来に向けた新たな「和室文化」を構築していくことを宣言したいと思います。

「現代・和室の会」設立総会のご案内(会員の皆様へ) 2024.1.15

「現代・和室の会」設立準備会

代表 内田青蔵

「現代・和室の会」の「設立総会」を下記の日程で開催いたします。

■「設立総会」および懇親会

日時:2024年3月26日(火)16時より(受付は15時30分より)18時まで

場所:茗溪館(2階宴会場)住所:東京都文京区大塚1-5-23

(下記地図参照、東京メトロ丸の内線・茗荷谷駅より徒歩3分)

■申し込み及び会費

- ・お手数ですが、参加申し込みをお願いいたします。(申込書は次ページにあります)
下記メールあてに出席者のお名前とご所属をご記入の上お送りください。
- ・メールでの返信先 info@gen-washi.jp
- ・会費:7千円・当日受付にご持参くださいませ。よろしくお願い申し上げます。

●【会場案内図】



「現代・和室の会」：3月26日（火）「設立総会・懇親会」への参加申込書

・3月15日（金）までに下記宛先までお送り願います。

・メール返信先 info@gen-washi.jp

■「設立総会・懇親会」への参加

参加者の氏名・所属名・連絡先（メールアドレス）

① 氏名： _____（所属名： _____）
（メールアドレス： _____）

② 氏名： _____（所属名： _____）
（メールアドレス： _____）

③ 氏名： _____（所属名： _____）
（メールアドレス： _____）

（必要に応じて、行を増やしていただいても結構です。）

2024 年度 現代・和室の会 入会申込書

現代・和室の会への入会をご希望の場合は

恐れ入りますが、下記 空欄部分にご記入いただき、メールにてご返信下さい。

* 法人会員を希望される場合は情報をお受け取りになる代表の方を一名ご登録ください。

2024 年 月 日

フリガナ		生年	
お名前		月日	
会員種類	正会員・法人正会員・特別名誉会員・学生ボランティア会員 (○で囲む)	会員 番号	記入不要
ご勤務先	フリガナ	所属・ 役職	
	勤務 先名		
	住所	〒	—
	TEL		FAX
ご自宅 (「ご勤務先」 を記入いた だいた場合 は「ご自宅」 情報の記入 は任意です)	住所	〒	—
	TEL		FAX
e-mail	ご自宅・ご勤務先 (○で囲む)	アドレス	

※ 現代・和室の会からの定期情報(各種のご案内、総会のお知らせ等)は原則として e-mail のみの発信となります。

郵送の時(特別な郵送物がある場合のみ)の郵送先をご指示ください。

郵送資料の お受取り先	ご自宅 (○で囲む)	ご勤務先
----------------	---------------	------

※正会員としての入会には2名の推薦人(正会員に限る)が必要です(特別名誉会員の場合は不要です)。

正会員の推薦 人・お名前 (1人目)		推薦人の勤務先の名称 及び肩書	
--------------------------	--	--------------------	--

(学生ボランティア会員の場合は推薦人一人を担当教員(正会員の必要は無し)で下記に記入お願い致します)

正会員の推薦 人・お名前 (2人目)		推薦人の勤務先の名称 及び肩書	
--------------------------	--	--------------------	--

メールにてご返信ください。(info@gen-washi.jp)

会費(入会金、年会費)の振り込み口座は **みずほ銀行 鶴見支店 普通 3068071 「現代・和室の会」**です。

(年会費 個人正会員:10000円、法人正会員:30000円、学生ボランティア会員:無料)

(入会金 個人正会員:10000円、法人正会員:50000円、学生ボランティア会員:無料)

* ご入会日は事務局にて入金を確認し、入会手続処理が完了した時点からとなります。(年度は4月1日~3月31日です)

- 現代・和室の会がお預かりする個人名(法人会員の場合は現代・和室の会の情報を受け取る担当者名)・勤務先情報・自宅情報などの個人情報(以下同じ)につきましては、次の目的に使用されます。
 - 現代・和室の会からのお知らせの配布
 - その他現代・和室の会の目的に付帯関連する範囲での使用
- 個人情報は、現代・和室の会の事務局にて管理されます。

関連書籍・記事



2020年10月発行

<住総研 住まい読本>

『和室学-世界で日本にしかない空間』

編者 松村秀一、服部岑生

著者 松村秀一、服部岑生、稲葉信子、上西明、
内田青蔵、岡絵理子、小沢朝江、桐浴邦夫、
鈴木義弘、平井ゆか、藤田盟児、松本直之

発行 平凡社

定価 3400円＋税



2022年12月発行

<住総研 住まい読本>

『和室礼讃 「ふるまい」の空間学』

編者 松村秀一、稲葉信子、上西明、内田青蔵
桐浴邦夫、藤田盟児

著者 日本建築和室の世界遺産的価値研究会

発行 晶文社

定価 2700円＋税

読売新聞 (2024/1/17)

『和室文化「無形遺産に」 研究者や建築家ら 推進団体3月発足へ』

・電子版アドレス

<https://www.yomiuri.co.jp/culture/dentou/20240116-0YT1T50211>

発言



松村 秀一 早稲田大研究院教授

和室 ユネスコ無形文化遺産に

おとそ気分が古い邦画のビデオなどを見ていると、かつての日本の家の大部分が畳を敷き詰めた和室だったことに改めて気付かされる。

和室は、昭和生まれの私のような者には幼い頃から慣れ親しんだ生活空間である。和室を構成する畳、障子、ふすま、水平に張られた木製の天井、掛け軸などを飾り鑑賞する床の間、隣の部屋同士をあいまいに仕切る欄間、庭と室内を柔らかくつなぐ縁側といった要

素は、すべて日本固有のものだ。そして、これらで構成された和室での私たちの暮らしや立ち居振る舞いは、畳の上にごろんと転がるくつろぎから、茶道や華道などのたしなみ、節句、祝い事、弔事といった儀礼やうたげ、家族たんらんまで、長年続いてきた日本の生活文化そのものでもある。

短辺と長辺の比が1対2の適度に硬い畳を敷き詰めていること、6畳、8畳というように畳の数だけで誰もが広さを認識できるこ

と、柱と柱の間に鴨居と敷居をはめ込み、その溝に可動式の建具を入れること、その建具の開閉によって隣の部屋や外の自然とのつながり方を自在に調整できること……。和室を建築的に見ると、海外の建築で出合うことのできない優れた特質を多く見いだすことができる。そのことに言及した建築家や文学者は枚挙にいとまがない。

しかし、ふと気付くと、新築マンションで和室を見ることはまれとなり、身近なところから姿を消

しつつある。そもそも「おとそ気分」と言うとき、そのビデオを見ている場所は和室で、こたつに入りながらのんびりしている様子が目に浮かぶだろうが、実際は洋室でソファに座って見ているたりする。学生に和室での居住経験の有無を尋ねると、皆無と答える者が珍しくない。2020年の国勢調査で、和室を支える畳職の平均年齢は60歳を超え、10代は全国で10人という結果が公表された。

このように世界で日本にしか

い和室が、今や日本の各所で姿を消し、それをつくる技能者の世界も衰退の一途をたどりつつある。21年11月に行われた建築士会全国大会に招かれた解剖学者の養老孟司さんは、会場に集まった建築士たちに次のように問われた。「建築関係者は日本間での生活、和室での生活が、我々に与えているものを理解した上で、和室をなくしているのですか」

建築関係者が和室を積極的になくしてきたとは言えないかもしれないが、無為無策であったことは間違いなく。養老さんの講演より少し前の16年、和室がなくなるかもしれないという危機感を共有する研究者や建築家が、日本建築学

会内に特別調査委員会をつくり、和室の世界遺産的価値に関する研究を開始した。目標には和室の国連教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産化をすえた。今年3月には、より多方面の人々が集まり、ともにさまざまな和室とその歴史を学び、将来を語り合う場となる「現代・和室の会」を立ち上げる。私は会の顧問として、他の発起人と協力し、啓発・普及活動を広く展開する決意である。読者のみなさんもぜひ参加してほしい。

まつむら・しゅういち 東京大大学院修了後、同教授、特任教授を歴任。元日本建築学会副会長。

「現代・和室の会」会則（案）（抜粋）

第1条 本会の名称は「現代・和室の会」とする。

第3条 目的

本会は和室を中心に生まれた和室文化を把握し、同時にその固有の価値や多義的意味を解き明かしながら、和室の重要性を示し、無形文化遺産として国際認知されることを目的とする。そのために、失われつつある和室を保護し、また新たな和室文化を継承する総合的な活動を行う。和室の造り手の生活を守り、後進を育成することを重視する。

和室文化とは、和室の建築の歴史や文化、およびその背景にある知恵の積み重ねと成立理由を理解しつつ、気候風土に適した居心地の良い、美しく、健康的な空間を味わえる習慣や美意識のある生活のことである。

第4条 事業

本会は、前条の目的を達成する為に次の事業を行なう。

第5条 本会は、前条の目的を達成する為、また会員の拡充、資質の向上、交流を目指し、次の事業を行なう。

- ・和室文化に関する調査研究および専門教育。
- ・和室文化に関連・隣接する産業分野との協働事業（技術者教育など）。
- ・和室文化に関する講演会、研修会、展示会、並びに見学会などの開催。
- ・和室文化に関する、子どもから大人までを対象とした教育普及活動。
- ・和室文化持続のために必要な政策、制度などの提言。
- ・ホームページによる情報発信、出版の実施。
- ・その他本会の目的を達成する為に必要な活動。

第6条 会員

本会の会員は次の通りとする。

和室に関心があり、今後の維持・活用・発展に興味のある者、あるいは和室に関する歴史、空間、技術、芸術、工芸、その他の分野において研究実務を行ない、本会の目的に賛同する者。

会員の種類は正会員、特別名誉会員、学生ボランティア会員とする。

「現代・和室の会」発起人名簿（予定者名簿）

会長（代表幹事） 内田 青蔵 （神奈川大学 特任教授）

副会長（幹事） 稲葉 信子（筑波大学 名誉教授）
岡 絵理子（関西大学 教授）
小沢 朝江（東海大学 教授）
桐浴 邦夫（京都建築専門学校 副校長）
藤田 盟児（奈良女子大学 工学部長）

常任幹事 上西 明（上西建築都市設計事務所 代表）
亀井 靖子（日本大学 准教授）
道江 紳一（（一財）住総研 評議員） 事務局長を兼任する幹事*
泉 幸甫（泉幸甫建築研究所 代表）
市岡 綾子（日本大学 専任講師）
伊藤 圭子（(株)AQ Group 監査役）
中嶋 節子（京都大学大学院 教授）
藤井 恵介（東京大学 名誉教授）
今後関連団体のかたにも声がけ予定

顧問（幹事） 服部 岑生（千葉大学 名誉教授）
松村 秀一（早稲田大学 研究院教授）

監査役 高田 光雄（京都美術工芸大学 副学長）
谷 直樹（大阪市立大学 名誉教授）